

#編集後記 ちあきちゃんのおばあちゃん

今月、台風7号が近畿地方を直撃しました。

大雨による被害や交通機関の大きな混乱はありましたが、鉄道会社の計画運休やお盆期間中で休みの会社が多かったことで、多少は被害を減らすことができたのかもしれない。



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail avenir4you@gmail.com



もう25年以上前、サラリーマンだった僕が吹田の千里ニュータウンで家族4人で暮らしていた時の話です。当時、台風による鉄道会社の事前の計画運休なんてことはまずありませんでしたし、僕自身よっぽどでなければ普通に出勤することが当たり前のように思っていました。台風が近畿地方に向かっていったある日のこと。家内は当時行っていたパン屋さんのパートに出かけ、4歳と5歳になるうちの子を僕が近くの保育園に送りに行きました。

ところが、保育園の門が閉まっています。「すいませーん」と大きな声を出すと、園長先生が出てきて「〇〇警報が出たから休園ですよ」と言われて愕然となりました。自分の無知が悪いのですが、その日大切なアポイントがあって、どうしても出勤しなければならなかった僕はとーっても焦りました。

いろいろ考えを巡らせて思いついたのが、うちの子たちの遊び友だちで年齢は少し上の「ちあきちゃん」という可愛い女の子とその優しいおばあちゃんの笑顔です。

ちあきちゃんの家はお母さんがいなくて、お父さんは仕事で殆ど不在。

おばあちゃんは、ちあきちゃんと弟を育てている、優しくもたくましい方です。

あのおばあちゃんなら、うちの子ども達を預かってもらえるのではないかな・・・。

藁（わら）にもすがる思いで、子どもたちに連れられて、「ちあきちゃん」の家に向かうと、

おばあちゃんは、二つ返事でうちの子ども達を預かってくれました。

その時の笑顔が頼もしくて柔らかくて・・・。会社に向かう電車の中でも心の中で何度も頭を下げました。

体が弱かった子どもの頃から多くの人に支えられてきた僕ですが、大人になってからもいろんな人のお世話になりながら、今に至っていることを改めて感じています。

そう思うことが多くなったのは、僕が還暦を迎えたからかもしれません。σ(^_^;)

でも、子どもの頃は60歳といえば賞禄がある重厚な爺さんと思っていました。

まーこんな軽くて薄いおちゃらけ還暦で、なんかごめんね、ごめんねーです。(>_<)

還暦は、生まれたときと同じ暦に還る（赤ちゃんに還る）ということ。

でも人生100年時代、たかが60歳で赤ちゃんに戻るって、僕には抵抗がありあり、ありまくりです。

僕はね、思うんです。60歳は、自分が「還る」というより、誰かに「還す」、みんなに「還元する」ことを意識するという節目じゃないのかなって。

自分が誰かのためにできることをやることで、ここから改めて人としての成長につながるのではないかしらん。どうせ歳を重ねるのなら、ちあきちゃんのおばあちゃんのような人になりたいから、流される自分を戒めなくちゃ。

9月には「敬老の日」がありますね。

「老害」なんて少しいやな言葉もありますが、自分の知識や経験を、押しつけにならないよう社会に「還元する」ことを知る高齢者であれば、「敬老」されるのではないのでしょうか。

企業においては定年後であっても70歳迄雇用するという努力義務があります。年配の従業員の方には、培った貴重なノウハウや経験を上手に下の世代に引き継いでほしいし、下の世代もリスペクトを忘れないでほしいです。目指すところは、ラグビー日本代表チームのように、**Our Team, Our COMPANY, Our JAPAN** です。

お世話になった、ちあきちゃんのおばあちゃんが亡くなって何年も経ちますが、あの可愛かったちあきちゃんも、今や2人の子どもを持つお母さんになっています。ふと思い出すのは「まわる、まわるよ、時代はまわる・・・」という中島みゆきさんの歌。ちあきちゃん親子とは、涼しくなったら焼肉行こうな！って約束しているんですよ。^_^☆

